

5年目を迎え、新たな展開の時を迎えています!!

理事長 飯野 順子

今年の入学式には、「育ててくれて ありがとう」(絵・文 葉 祥明)を読みました。

ボクは このせかいでは、ふじゆうのようにみえるけれど、
ボクのほんとうのすがたをしたら、
きっと、ママもパパもおどろくよ ボクのたましいは、かんぺきさ!
そのちからづよさと、かがやきを かんじてほしいな!



特に、「ボクのたましいは、かんぺきさ!」のところを、力を込めて読みました。入学式を、一人一人の内面の豊かさ、つよさ、美しさなど、その輝きは、見えないけれどもあるということ、確かめ合う時にしたかったからです。一人一人の内面を見つめ、磨きをかけるのは、「訪問カレッジ」の活動の根幹です。また、「育ててくれて、ありがとう!」という感謝の気持ちを、新入生に代わって、ご家族の方に、伝えたいからです。「一緒に、がんばろうね!」との気持ちも、込めています。

更に、葉祥明さんは、ハンディキャップのある人は、人生のチャレンジャーとの考えを貫いており、こんなことも言っています。

すべての子が、自分の親に特別な感謝の念を抱いていますが、ハンディキャップをもって生まれた子は、あなたに、通常では得られない特別な人生の宝をプレゼントしてくれるでしょう。



「訪問カレッジ@希林館」は、5年目を迎えました。私たちも新たな仕組みづくりにチャレンジしてきました。歴史的な視点で振り返ると、「言い出して5年、事が成るには、10年の歳月が必要」と実感していますが、5年目の今年、新たな展開の時になりました。

文部科学省で「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」(後述)がスタートしたのです。その会議での意見聴取の際、次のことを伝えようと思っています。

『訪問カレッジの活動は、余暇活動ではありません。学ぶことは、生きること、一人一人の存在を創る取り組み、そして、喜びと幸福感をもたらす取り組みです。このことは、人としての権利であり、その尊厳が問われる根源的なことです。「生命、自由及び幸福追求は、国民の権利(憲法第13条)」との立ち位置で考える必要があると思うようになりました。「訪問カレッジ」の意義は、次の3点です。

【1 医療的ケアの必要な方の心豊かで幸福な人生の構築】①生命を育み、生命を強め、生きる力を高める。②日常生活の空間を、知的刺激のある学びの環境として整え、生活の質を高める。③本人主体の活動を創出する。【2 家族への支援】①家族の孤立化を防ぐ～話し相手・心理的な支え。②喜びを分かち合い、関係性を深める。【3 地域社会への発信】①生命を尊重し、生命の価値を多くの方に伝えるなど、新たな価値観を創造する。』

15人となりました学生さんの顔を思い浮かべながら、委員の方々に、その必要性和切実さを訴えたいと思っています。

平成30年度 新入学生紹介

平成30年度の新入生は4名になりました。進級された11名とあわせて、本年度は15名の学生が学んでいます。

伊藤 ^{かいと}海さん (平成30年度入学生)

僕は伊藤海です。3月に青峰学園高等部を卒業しました。卒業する前に僕はお母さんや担任の先生と、カレッジでどんなことをやりたいか考えました。

○音楽を聴いたり歌ったり、好きな音楽を自分で選んでもっと広く楽しみたい。

○『映画研究会』に入って色々な映画を研究したい (今はジブリ、ディズニーのDVDが好きで結構詳しいです)

○季節を感じる活動 (両親や Dr.の希望)

4月7日の入学式では、新しい先生に名前を呼ばれてすぐに返事、家族や参加した病棟スタッフに拍手してもらいました。自分で選んだ歌『やさしさに包まれたなら』もみんなで歌って楽しい日になりました。テラスで写真も撮りました。

カレッジの時間を楽しみにしています。



佐藤 ^{あせい}亜聖さん (平成30年度入学生)

はじめまして、佐藤亜聖と申します。30年度の入学とのことですが、2月から授業が始まっています。ただ今のところ月1回。少々物足りなさを感じています。

申し遅れましたが、東京都立多摩桜の丘学園高等部を平成28年3月に卒業しました。マカトンサイン、指文字、筆談、トーキングエイドを駆使して会話します。また、ゆっくり大きな声であれば聞き取ることもできます。

訪問カレッジで、どのような自分づくりができるか楽しみです。



たかひろ
森 岳大さん（平成30年度入学生）

3月に都立志村学園を卒業し、4月20日、飯野先生、志村学園の元担任の先生に囲まれて入学式を行いました。入学式といういつもと違う場面にも関わらず、落ち着いてすっきりとした表情で笑顔を見せたり、話しかけに答えたりできました。飯野先生からお祝いの言葉や学生証を受け取り、新しい学習の場が始まることを意識しました。苦手なことはあまりしたくないけど、ちょっぴりチャレンジしつつ、楽しめること増やしていきます。



アディティア アルファロ ピンタンさん（平成30年度入学生）

3月に都立志村学園を卒業し、4月19日、飯野先生、志村学園の元担任の先生方に囲まれて入学式を行いました。ピシッとスーツで決め、飯野先生から学生証を受け取り、歌とともに春らしい二色の布の動きで起こる風を受け、お祝いのひとときを過ごしました。右目を時々開けて、活動をチェックするのが僕流のやり方です。今後、身体をたくさん動かし、ちょっと苦手な感触の学習等も頑張りたいです。



学びの風景

友田海さん（平成27年度入学生）

海さんの活動は病室のベッドから車いすに移乗して始まりです。元気のない時はベッドサイドです。さあ！今日は何からしましょうか？海さんに選んでもらいます。ハサミでチョキチョキ、カラーコップ積み、洗濯ばさみ、磁石遊び、描画、シール貼り、音楽、楽器鳴らし等々やりたいことがいろいろあるのですが、ここ1～2年、見て操作することがしにくくなってきた様子です。でも、訪問カレッジの時間を楽しんで、笑顔を見せてくれます。「できた！」の時には笑顔で拍手。「肩や背中をタッピングして！」と要求です。在学中に親しんできた歌を聴くことも好きで、特に「にじ」は大好きです。最近新しく好

きになった歌は「ゾウバナナ」（「うたのパレット」に収録）です。バチを持って太鼓打ちもがんばっていました。

海さんは病棟のアイドル。ファンの看護師さんがいっぱいです。海さんの笑顔に皆さん嬉しそうです。



「重度障害者・生涯学習ネットワーク」設立

重い障害のある方々も、心豊かな生活の実現のために、「大学に行きたい!」「もっと勉強したい!」などの「学び」を希求しています。生涯にわたり学び続けたいという夢や願いに応えるために、私たちは、「カレッジ」等の名称を冠した学びの機会と場を創ってきました。活動を拡充していくことが必要であると考え、平成29年12月付けで5団体によるネットワークを設立しました。

①「訪問カレッジ@希林館」

NPO 法人地域ケアさぼーと研究所代表 飯野順子

②「訪問大学おおきなき」

おおきなき代表 相澤純一

③「ひまわり Home College」

NPO 法人ひまわり Project Team 代表 藤原千里

④「訪問療育いるか」

NPO 法人かすみ草 いるか代表 加藤はる江

⑤「i.porte (あいぽると)」

NPO 法人あいけあ 代表 岡安玲

め、「特別支援総合プロジェクト特命チーム」を設置するとともに、平成29年度から生涯学習政策局に「障害者学習支援推進室」を新設しました。そして、「誰もが必要な時に学ぶことのできる環境を整備し、生涯学習社会を実現するとともに、共生社会の実現に寄与するため、学校卒業後の障害者の学びに係る現状と課題を分析し、その推進方策について検討を行う」ために有識者会議を設置し、第1回が3月20日に開催されました。

4月12日午前、私どもの事務所に文部科学省障害者学習支援推進室の室長と室員のお二人がいらして、重い障害のある方の生涯学習について意見交換を行いました。

私どもが行なっている生涯学習「訪問カレッジ」の5年間の実践は、「学ぶことは、生きること」であり、障害の有無や重軽を問わず、人生を豊かにする意味のあることという点を、ご理解いただきました。

今後、この有識者会議にてお話しする機会をいただくことになりました。

学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議の設置について

文部科学省は、「平成26年の障害者権利条約の批准（障害者の生涯学習の確保が規定）や平成28年4月の障害者差別解消法の施行、平成29年4月の文部科学大臣メッセージ（特別支援教育の生涯学習化に向けて）を契機とする取組等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進することが急務である。」として、文部科学省内の体制を確立するた



「賛助会員」の募集

1 賛助会員の年会費は

- ・個人 一口 3,000円
- ・団体・法人一口 10,000円 です。(何口でも構いません)

2 ご賛同いただける場合は、振込用紙をご利用いただき、郵便振替口座にお振り込み下さい。

3 「訪問カレッジ通信『やまびこ』」を年2回発行し、お届けします。

※会費は、フォーラム、文化フェスタ、通信の印刷・送料に充てさせていただきます。

賛助会員数 個人63名 団体4 (H30.5.1現在)

【振替口座】

口座名 トクヒ) チイケアサポートケンキュウショ
口座番号 00110-2-616037